

この国では、誰も？多くの政治家の言葉を信じていません。いつの頃からでしょうか。

自衛隊の海外派遣問題で、当時の首相は「安全なところに派遣する」と発言。「どこが安全なのか」と質問され、「わたしが安全だということ」と答えました。野党は何も発言していません。報道陣や評論家も追及なしでした。説明責任を果たした、ということのようです。

この政治家の秘書をしていたのが安倍総理です。大変優秀なお弟子さんだったようです。

「一緒に・・・しようではありませんか」と格好良く言います。その実、国民が自己責任でやりなさい、と言っているようなものです。モリカケ、花見の会、その他覚えきれないほどの事案にその不誠実な姿勢がありました。政治家の嘘は許されるのでしょうか。かつては、解散総選挙に関しては本当のことは言わないもの、嘘をついても許された。いつの間にか、手前勝手に拡張し、何もかも嘘で固めるようになりました。

佐藤優氏が、石破茂（いしばしげる）衆院議員に関して書いたものを引用しましょう。

「石破氏の母方の曾祖父は金森通倫だ。氏は18歳の時に日本基督教団鳥取教会で洗礼を受けている。自民党に属する保守政治家であるが、石破氏の政治観の根底にはプロテスタントのキリスト教信仰があると筆者（佐藤優氏）は見ている。」

雑誌『福音と世界』2019年10月号、60p「佐藤優のことばの履歴書」より

金森 通倫（かなもり みちとも、「つうりん」とも 安政4年8月15日（1857年10月2日）～昭和20（1945）年3月4日）は、熊本バンド、同志社の一員。日本の宗教家・牧師。別名はポール・カナモリ。晩年は湘南の嶺山に隠居、原始的な洞窟生活をして「今仙人」といわれた。石破議員の政見は違っていても、嘘はつかない、政治への信頼を回復してくれる、と感じるがどうだろうか。